

令和5年度 第1回奈良市社会教育委員会会議 会議録			
開催日時	令和5年 6月28日(水) 午前10時から12時まで		
開催場所	奈良市役所 中央棟 B1 会議室		
出席者	委員	岡田 <sup>和</sup> 委員、岡田 <sup>龍</sup> 委員、奥田委員、加藤委員、川野委員、北出委員、武村委員、中村委員【計8人出席】	
	事務局	教育長、教育部長、教育部次長、地域教育課長、地域教育課課長補佐、地域教育課主査、生涯学習財団事務局長	
開催形態	公開(傍聴人4人)	担当課	教育部 地域教育課
議題又は案件	(1) 令和5年度社会教育関係事業について ① 「令和5年度補助金交付社会教育団体」について ② 「令和4年度社会教育委員事業実績」について ③ 「令和5年度社会教育委員事業計画」について (2) 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について (3) 今後の公民館運営について (4) 今後の黒髪山キャンプフィールド及び青少年野外活動センターの運営について (5) その他		
決定又は取り纏め事項	(1) ① 令和5年度補助金交付社会教育団体の承認		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
(1) 令和5年度社会教育関係事業について ① 「令和5年度補助金交付社会教育団体」について【資料1】 ・ 補助金交付の承認にあたり、関連団体に所属する委員については一時退席の対応をした上、各団体及び事業概要の説明を行った。 ・ 社会教育に関する事業を主たる目的とする社会教育団体「奈良市PTA連合会」「奈良市子ども会育成連絡協議会」「一般社団法人ガールスカウト奈良県連盟奈良市協議会」「ボーイスカウトわかくさ地区協議会」及び「奈良ユネスコ協会」の5団体に対する運営補助の補助金交付を予定している。 < 補助金交付について承認された > ② 「令和4年度社会教育委員事業実績」について【資料2】 ・ 資料のとおりであることを説明した。			

<特に意見なし>

③令和5年度社会教育委員事業計画について【資料3】

- ・資料のとおりであることを説明した。
- ・各種大会の詳細な通知が届き次第、委員の方々に案内することを説明した。

<特に意見なし>

(2) 奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告について【資料4】

【委員からの意見・質問等】

- ・社会教育委員の意見に対して各課から回答はあるが、その後各課の事業にどう活かされたのかが分かるようなフィードバックが頂きたい。
- 事業評価シートの在り方もしくは同じ事業評価シートであっても、委員の意見をどう事業に活かしていくのかという視点を関係各課へ周知してPDCAの流れを作るようにしたい。

(3) 今後の公民館運営について【資料5】

- ・資料のとおりであることを説明した。

【委員からの意見・質問等】

- ・公民館の位置づけを変えて、財団の役割を変えてということになると最終的には条例改正が必要であろう。時間的見通しと我々社会教育委員に期待されていることや役割についてお聞きしたい。
- 公共施設は条例に規定されているため、移行にあたり条例改正は必要である。担い手が見込める施設から順次条例改正をして移行していきたいと思う。様々な立場で社会教育に携わっておられる社会教育委員の皆様には、行政が見えていない範囲や配慮がいくところについてご指摘やご助言を頂きたい。
- ・公民館に関する課題や地域の課題については最もだと思うが、新しい融合施設にすることでどう解決されるのか。地域の方が担うことで身近になるというメリットはあるが、その地域の方のバイアス的なものや考え方が固定化されていくので、多様性というところで心配される。
- 公民館機能を備えたふれあい会館にすることで全ての課題が解決されるわけではないが、移行することで出てくるメリットが多くある。例えば、より地域に身近な方がいらっしゃる施設で、生涯学習や社会教育をやっていくことで学んだことを地域や社会で生かす気運の醸成等に結びつきやすいのではないかと考える。公民館とふれあい会館両方の良い所を融合させることで、より良い地域拠点を作れると考える。無論市の厳しい財政面から見ても両方の施設を全ての地域に整備することは難しい面もある。先を見据えて、市教育委員会の職員ないしは財団の職員が社会情勢や市民のニーズを見ながら社会教育の内容やサービスを提供していくことが必要だ。- ・公民館とふれあい会館を融合し、ふれあい会館に公民館機能をつけることは聞いたが、逆に公民館を維持して公民館にふれあい会館機能を持たせないのか。
- ・奈良市では公民館の運営を財団に委託し活性化に努めてきたが、財団をもってしても利用者の固定化、偏りの流れを変えていくことは難しい事実がある。ここで新規

軸を出す必要があることはわかる。地域自治協議会が受け皿であることが前提であろうが、一つの団体に集中投下していくという大きな行政の流れだと理解している。いずれにしろ、地域に運営できる人材がいるのかが問題だ。財団の有能な人材が施設運営のために張り付いているのではなく、地域人材の育成面で活躍していただく等プロ集団として機能するのであれば良いのではないか。ただ公民館を無くす事ありきではなく、財団がこれから奈良市で自分たちの力をどうやって発揮していくか財団の中での議論が必要であろう。

→様々な行政サービスを可能なやり方で継続発展させていく必要がある中で、継続性を見込みつつ、どうしていくべきかを考えて今回ご提案した方向性になった。

- ・財政が下がっている中でどうやって社会教育を維持存続させていくのか、何を残して何をスリム化していくのか。公助ができなくなっている中で、いかに自助と共助を生み出せるのか。自治をどのように生み出すのかはまさに社会教育の範疇である。現在、『Local Coop 月ヶ瀬』にて、行政を使わない住民自治の在り方が先行して進みつつあるので、プロジェクトの成果を見て、奈良らしいやり方を見てからでもよいのではないか。先行事例を検証し、議論を重ねて進めていってほしい。
- ・公民館は防災拠点である。そのためには、どんな市民サービスができるのか、常日頃からどうやったら人が来やすいのか、建物を知っていただく面でも、多くの人に来てもらう方法はないのか併せ持って考えて頂きたい。

(4) 今後の黒髪山キャンプフィールド及び青少年野外活動センターの運営について【資料6】

【委員からの意見・質問等】

- ・料金が有料になるということと施設開所日を広げるということだと思うが、青少年や関係者の利用を優先するとか、無料にする等は考えていただけないか。

→両施設とも施設の名称に青少年が入っており、現状利用者も青少年に限るとしている。青少年及び関係者の利用を大切にしつつ、今後一般の方にも利用していただけるように考えているが、青少年及び関係者の利用を優先できるよう仕組みを作っていけたらと思う。

(5) その他

資 料	<p>令和5年度 第1回奈良市社会教育委員会議次第          令和5年度 奈良市社会教育委員名簿          (資料1)「令和5年度 補助金交付社会教育関係団体一覧」          (資料2)「令和4年度 社会教育委員事業実績」          (資料3)「令和5年度 社会教育委員事業計画」          (資料4)「奈良市社会教育推進計画に基づく事業報告」          (資料5)「今後の公民館運営について」          (資料6)「今後の黒髪山キャンプフィールド及び青少年野外活動センターの運営について」</p>
-----	---